

1、「子育て先進区」における予算編成について

①教育予算の確保を

問 新型コロナにより財政は大きく影響を受けることから、経常経費削減が求められている。教育に関しては一律の削減はなじまないのではないか？ 未来を生きる子どもたちのために、「こうした教育を実施していくのだ」という方針を持った教育予算を確保してこそ「子育て先進区」である。区の見解を問う。

答 良好な子育て・教育環境の実現に向けて適時適切な予算措置を行う。

②塾ありきではない学校教育を

問 教育予算編成の重点課題に授業改善、GIGA スクール構想等が挙げられている。児童生徒の通塾比率は半数を超えている。原則基礎的な学習内容習得は学校教育の中で進めるべきではないか？

答 学習指導要領に示されている目標が達成できるよう教育家庭を実践している。一人ひとり状況の異なる児童生徒に対し、少人数指導や補充教室等を実施。今後は端末配備が実現したら学習アプリも活用していく。

③教育委員会に ICT 担当係を置くべきでは

問 ICT 環境整備については滞りなく業務が進むよう教育委員会に ICT 担当が配置されることが必要不可欠であるがいかがか？

答 必要な人員を配置できるよう検討しているところである。

④ICT 端末だけではなくデジタル教材もセットで配備を

問 GIGA スクール構想において、学びは対面とデジタルとのバランスを保ち、機材を活かすデジタル教材配備をセットで考えるべきだが検討状況はいかがか？

答 現在使用しているドリル形式の教材導入を考えている。

⑤発達に課題のある子どもに対する支援の充実を

問 来年度から発達に課題のある未就学児に対する「保育所等訪問支援」がスタートする。制度の網からこぼれる子どもがないようにするべきだがいかがか？

答 保育所等の運営支援の一環として区内保育所を訪問する事業を検討している。

⑥学校施設整備計画のスケジュールは余裕を持って

問 今年度、新型コロナの影響もあって本郷小の施設整備を一旦中止したが、検討後は優先して取り組むべきでは？また、そもそも施設整備計画自体が社会情勢の変化に対応する余裕がないものだったのではないか？

答 本郷小についてはこれまでの経緯等を踏まえて検討していく。また今後は1年につき1校の工事着手とするなど、小中学校施設整備計画は5年ごとに見直しを行いたい。

「次世代育成委員」支援と「学校支援ボランティア制度」再構築を

①次世代育成委員へ一歩進んだサポートを

問 中学校区に配置され、家庭・地域及び学校の連携促進を図る次世代育成委員は、活動に差があったり、求められる内容が整理されていないということがあるのではないかと聞かれています。円滑に活動が進むような研修の工夫や区民への広報など、一歩進んだサポートを求めたいが区の見解は？

答 2008年に発足以来尽力いただき感謝している。スムーズに業務が行えるような研修や、区民への周知方法も工夫していきたい。

②全世代型地域包括ケア推進システムにおける次世代委員の役割は

問 全世代型地域包括ケア推進システムにおいて、次世代委にはどのような役割を求めるのか？

答 システム構築に向けて、関係者の役割についてわかりやすく示していきたい。

③「学校運営協議会制度」と「学校地域協働活動」への取り組み状況は

「学校支援ボランティア制度」は形骸化しているが再構築は

問 今後文部科学省の方針とともに全国的に地域とともにある学校が目指されるが、中野区の「学校運営協議会」を設置したコミュニティスクールや「地域学校協働活動」への取り組み予定は？ 学校支援ボランティア制度や次世代育成委員の学校支援活動はまさに地域学校協働活動であるが、学校ボランティア制度は現状形骸化している。再構築すべきでは。

答 令和3年度から導入手順の検討とともに、関係する現行の制度を見直していく。

④地域の担い手の育成を

問 地域とは、「施設など」ハード、「会議体やイベントなど」ソフト、そして「人」の三位一体で成り立っている。この真ん中にみんなの学校があるともいえる。そこで地域をコーディネートする役割は要であるが、人材は一朝一夕では育たない。人材育成をどう考えるか？

答 コーディネーターの育成や交流、情報交換、地域への周知を図ることを通じて人材育成に努めていきたい。

野方以西の「西武新宿線沿線まちづくり」の課題を問う

①野方駅井荻駅間の連続立体交差事業の構造形式の決定や公表は

問 高架化か地下化によってまちの様子は大きく変わる。都へはどのように働きかけているか？

答 都からは都市計画素案の段階で説明されると聞いている。一方区としては構造形式にとらわれることなく1日も早く事業が実現するように関係機関と協力しながらまちづくりを進めていく。

②野方駅周辺地区のまちづくり整備方針は

問 今年度鷺ノ宮駅周辺地区・都立家政駅周辺地区の整備方針は策定されたが、野方駅周辺地区の整備方針の進捗状況は？野方第一号踏切の除却については？

答 野方駅周辺地区まちづくり整備方針は今年度中に素案が示されるよう検討を進めている。踏切については

鉄道事業者に依頼し、技術的な実現可能性の検証について調査検討を進めるとともに、事業の枠組みについて関係機関と意見交換を進めている。

③鷺宮西住宅の建て替えについて

問 東京都住宅供給公社（JKK）鷺宮西住宅については、自治会から早期の立替の要望も出されている。今後 JKK とどう役割分担して進めるのか。

答 J K K の再編整備計画と整合性を図りながら、広域避難場所の機能強化に資するまちづくりルールの導入や土地利用の誘導、道路整備等、関係機関と調整しながら進めていく。

④まちづくりは区民とともに

問 鷺宮は主体の異なる事業が多数予定されており、まちの姿は大きく変わっていくことが予想される。

住民参画によりまちづくりが進められ、機能面だけではなく景観も重視してまちがデザインされていくことが期待される。住民団体「鷺宮小学校跡地を考える会」から、跡地利用について要望も出されている。整備に関する情報は広く正確にタイムリーに出されるよう強く要望する。

答 策定したまちづくり整備方針を踏まえ、関係機関と調整を図り、地域のみなさまと意見交換を行うなど、適宜適切な情報提供を行う。